

始まったと思ったらゴールデンウィーク間近。ちょっと寂しいような、なんだかうれしいような…

ウェルビーイング

先日の入学式には、4年ぶりに6年生が参加してくれました。1年生の素晴らしい式への参加態度とともに、6年生の「自分たちで入学式を創る」という意気込みに、私たちは感動させられました。事前の献身的な準備のみならず、当日朝早くから通路を掃き清め、式での立派な姿勢にとどまらず歓迎の言葉や私の式辞の中でもボディーパーカッションと鍵盤ハーモニカの演奏を奏でてくれました。



その準備の最中、こう話すけいさん（仮名）がいました。

「先生、何かすることないですか？なかったら、こちら辺にごみがあるので掃除します」
なんと…

私は、この言葉に心を揺さぶられました。特に後半。頑張るお子さんの中には、早々にやることを終え、何かほかにできることを担当教師に聞きにくることは、ままあります。しかし、けいさんはそのことも踏まえながら、自ら入学式を迎える1年生のためにできることを探し、提案し、実践することができています。

昨今、「ウェルビーイング」という言葉が聞かれるようになりました。文字通り「よく(well)ある状態(being)」のことです。幸せな人生ってことか？楽しいってことか？どうも、簡単な言葉だけに、個人の解釈によっては多様に考えられる言葉のようです。

この「ウェルビーイング」という言葉、実は、現岸田内閣総理大臣の所信演説（2023年10月23日第212回国会）でも取り上げられている大切な言葉なのです。

岸田総理は、所信演説の結びで、次のように述べています。

「人々のやる気、希望、社会の豊かさといったいわゆる『ウェルビーイング』を^{ひろ}げれば、この令和の時代において再び、日本国民が『明日は今日より良くなる』と信じていることができるようになる。日本国民が『明日は今日より良くなる』と信じられる時代を実現します」
なんとも力強い言葉です。

ただ、この言葉の持つ意味は、単なる幸せのような「個人のウェルビーイング」にとどまってはいるようです。実際、自己肯定感とか自己実現とか、自ら獲得するような要素について、日本人の自己評価は大変低い状態にあります。

翻って、人とのつながりや他を思いやる気持ち、社会貢献など、協調的な要素に関しては日本の風土に似あっているとの実感が、私にはあります。つまり、日本社会に根差した調和と強調の中で、自分ができることに真摯に向き合い、所属する集団自体が幸せになるような「社会のウェルビーイング」という視点が、大変重要なのではないかと、私は思うのです。

我が6年生の入学式から始まった“自ら榎木小を創る”という参画姿勢は、この「社会のウェルビーイング」が高まっている状態ではないか。そんな仮説を立ててみた時に、先のけいさんの発言の本質がわかるような気がします。

みんなが幸せ、私も幸せって。

なんだか、素敵だな。また、「なりたい自分」をミッケ。